

平成27年8月7日

研修報告書

松戸市議会議員

大塚 健児

研修:クラウドファンディングによる地域づくり活動資金調達事業について

主催:島根県地域振興部しまね暮らし推進課定住スタッフ 企画幹 樋口和広氏

主任 河野智子氏

日時:平成27年8月7日(木) 10時~11時半

場所:島根県議会委員会室

次第:1.クラウドファンディングによる地域づくり活動資金調達事業について

【研修報告】

1.クラウドファンディングによる地域づくり活動資金調達事業について

【概要】

県内の地域づくり団体等が行う地域づくり活動のための資金を調達する手法として、「クラウドファンディング」の活用を支援することにより、県内の地域振興を図る。

【内容】

① 認定クラウドファンディング事業者の認定

- 実績は13件
- すべて目標額達成している。
- 実行者とは何度も話し合いをした上で事業者の認定を行っている。何度も行うため、途中で断念する実行者もいるとのこと。

② アドバイザーの派遣

- 県庁と個別にかかわりがある方に声掛けをし、アドバイザーを派遣している。

③ しまね社会貢献基金に寄付

クラウドファンディングとは別に、しまね社会貢献基金を設置し、個人や企業から寄付金を募り、島根県内のNPOの活動支援を行う。

【課題】

- 魅力あるプロジェクトを組み立てているが、継続性に欠ける
- 実行者は地元NPO等が中心であり、大きな経済効果を求めるというよりは、人間関係など協働の意味合いが強い。

【まとめ】

出雲市と同様で、地域よっての資金調達方法がこんなに違うのかという点が勉強になりました。松戸市の資金調達は、課題にあるように、継続性と大きな経済波及効果が大きなポイントです。そのためのクラウドファンディングのやり方は工夫をする必要があります。

島根県と同じようなやり方は松戸市では通用しません。

もし、松戸市でクラウドファンディングをやるのであれば、地元商店街に分権をし、商店街が主体となって、実行者を決めるというスタンスの方がのぞましいと思います。

松戸市が抱えてしまうと、地域の特色が活かされず、小さくまとまってしまう。

いずれにしても、島根県の目的として経済波及効果というよりは、地元活性化であるという点を忘れてはいけません。

松戸市もしっかりと強みを明確にした上で、目標設定をし、戦略を練るべきであると感じました。



以上